

## 大豆品種「サチユタカ A1号」の奨励品種採用

利用対象：大豆生産者、普及指導員

本県の大豆作は晩生品種の「フクユタカ」が95%以上を占めていますが、近年の気象条件では播種適期の7月上中旬に梅雨の長雨に遭うことが多く、適期に播種することが困難な状況となっています。そこで、県産大豆の生産拡大、安定供給を図るため、麦類収穫後の6月中下旬に播種をしても、倒伏の発生が少なく収量性に優れる「サチユタカ A1号」を奨励品種として採用しました。

表1 「サチユタカ A1号」の生育・収量・品質調査結果(三重県農業研究所内、6月中下旬播種、令和元~5年産)

品種名	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	主茎長 (cm)	節位高 (cm)	最下着莢 (0無-5莢)	倒伏程度 (0無-5莢)	青立程度 (%)	裂莢率 (%)	収量 (kg/a)	収量対比 (%)	百粒重 (g)	外観品質 (1良-7悪)	含有率 (%)	蛋白質 (%)
サチユタカ A1号	8.03	10.29	46	12.1	0.5	1.0	0.7	41.8	107	33.7	3.9	44.1		
フクユタカ	8.10	11.09	70	14.9	2.8	1.7	3.0	39.1	100	30.0	4.2	44.3		

※裂莢率は成熟期から1か月後に調査。

品種特性（6月中下旬播種条件での「フクユタカ」との比較）

- ・開花期は7日、成熟期は11日早い。
- ・主茎長は短く、最下着莢節位高はやや低く、倒伏程度は低い。
- ・裂莢率は成熟期から1か月後において低く、ほとんど裂莢しない。
- ・百粒重は大きく、収量はやや多い。
- ・外観品質は同程度。
- ・子実成分である粗蛋白質、粗脂肪および全糖の含有率はいずれも同程度。



図1 株標本(左:サチユタカ A1号、右:フクユタカ)

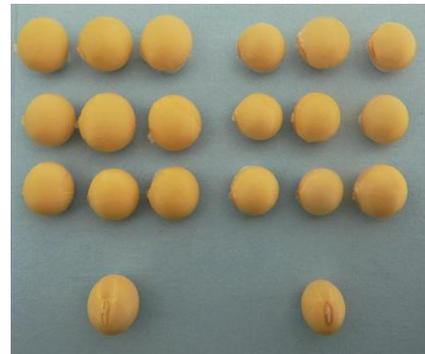


図2 子実の様子(粒大とへその色)(左:サチユタカ A1号、右:フクユタカ)

- ・普及面積は大豆作付面積の10%程度で令和10年に500ha程度を予定しており、それにあわせて、種子の生産も計画的に進めています。
- ・適期播種した「フクユタカ」と比べ、開花期が半月以上早くなるため、栽培管理に関して留意が必要です。特に、カメムシ類等、害虫に対する適切な防除が必要であるとともに、栽培圃場を団地化することが望ましいです。
- ・「フクユタカ」と比べ、最下着莢節位高がやや低いため、収穫時のコンバインの刈取部の下げすぎによって土がヘッド部に入らないよう注意が必要です。

お問い合わせ先	生産技術研究室 農産研究課	本多雄登	電話 0598-42-6359
	中央農業改良普及センター	内山裕介	電話 0598-42-6323
参考になる資料	<a href="https://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm">https://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm</a> (三重農研HP)		